

中古漢字韻母の体系

膨大な数に及ぶ漢字は、どのように分類されてきたのだろうか？漢字学界で有名な中国の韻書『広韻』(1008 年)では各漢字の韻母によって分類されている。藤堂明保編「漢和大字典」学習研究社(1998)(以下藤堂と呼ぶ)の p.1580 に「韻母の音色」という項がある。ここで藤堂は『広韻』を参考にして韻母を以下のように分類している。

まず韻母全体を大分類として第一類から第三類に分ける。第一類はア、エ、ヤ段、第二類はオヨウユ段、そして第三類はイオユ段である。韻母を 16 のグループ(摂)に分け、「十六通摂」と呼ぶ。下記の表では、このカタカナ表記のうしろに筆者が発音記号を追加した。次に藤堂はこれを A から M までの 13 類に区分している。摂欄の右の「等」は口の開きを表す分類で、口の開きの大きい方から一等・二等・三等・四等と呼ぶ。一等と二等は直音(介音を含まない音)で、三等(介音 i を含む)と四等は拗音(介音 i を含む)である。開口は介音 u を含まないもので、合口は介音 u を含むものである。韻目は「韻の名」とも呼び、漢和字典には各漢字にこれが記されている。たとえば添付した藤堂の本文の p.358 では親字「家」について「麻」という表記が見られるが、これは「家」の韻の名でこの漢字が A 類に属することを示している。以下の表の C 類山摂の「等」の欄に「純三等」と記入されている。これは、隋・唐当初から三等の介音 i を含み、のちに三等の介音をそのままにして核母音が変化したものを言う。また同じ C 類山摂にある「仮四等」は、隋・唐初めに直音だったが、唐の中ごろ以降、強介音 i を派生して四等韻なみとなったものをいう。

藤堂は、「韻母の音色」の項で「平声の韻の名で、上去声を代表させる」と記しているが、第一類 D 蟹摂では 2 等に夬と佳という同じ韻母 ai をもつ韻目を挙げている。藤堂の本文の親字夬の声調は去声で佳は平声である。韻母の発音がまったく同じ ai であっても、声調の違いを理由にして同じ「等」に二つの韻目を設けたことは、上の藤堂の記述と矛盾している。確かに例字として挙げられている「牯」の韻の名は本文にあるように夬で、「崖」の韻の名は佳なので、広韻の記述にならったものであろうか？

「韻目」の右に、左の韻母をもつ漢字の例(例字)を挙げている。各例字のうしろの[]内に筆者がその漢字の発音記号を追加した。例字欄の右の「韻目(入声)」欄に入声(発音記号の末尾に[p]、[t]又は[k]が付く)の韻母が記載されている。表のもっとも上の開口欄の右に合口欄があり、その下に開口欄と同じく「等」「韻目」「例字」「韻目(入声)」が設けられている。合口欄の右の「中古漢字音節表韻母番号」欄は筆者が追加したもので、各韻母について筆者が作成した別紙「中古漢字音節表」(ホームページの「日本語」≫「漢字」参照)に掲げられている韻母の番号を記載している。

なお藤堂の「韻母の音色」の記載には、間違いや疑問点が多くみられ、それに関する韻母の発音記号は青字にするとともに、表のうしろに注記を入れている。これらの間違いや疑問点について、学習研究社に質問しているが、まだ答えが得られていない。

大分類	類	撰	開口				合口				中古漢字音節表	
			等	韻目	例字	韻目 (入声)	等	韻目	例字	韻目 (入声)	韻母番号	
											開口 (入声)	合口 (入声)
第一類ア、エ、ヤ(a, e, ia)段	A	果撰と仮撰(ア・ヤ、ワ) (a/ia, ua)	1	歌 a	歌[kɑ] 多[tɑ]	入声なし	1	戈 ua	和[hua] 波[puɑ]	入声なし	1	113
			2	麻 ǎ	家[kǎ] 麻[mǎ]		2	麻合 uǎ	瓜[kuǎ] 花[huǎ]		2	114
			3	麻 iǎ	伽[giǎ] 車[tʃiǎ]		3	戈 iua	靴[hrua]		50	144
			4	麻 iǎ	姐[tsiǎ] 耶[yiǎ]		4	×			49	×
	B	効撰 (アウ・エウ)(au/eu)	1	豪 au	高[kau] 褒[pau]	入声なし	合口なし			入声なし	29	合口なし
			2	肴 ǎu	交[kǎu] 包[pǎu]		30					
			3	宵 ieu	驕[kieu] 苗[mieu]		104					
			4	宵 ieu	翹[gieu] 焦[tsieu]		103					
			仮4	蕭 eu→ieu	驍[keu] 幺[•eu]		43					
	C	山撰 (アン・エン、ワン・エン (エン))(an/en, uan/uen)	1	寒 an	干[kan] 単[tan]	曷 at	1	桓 uan	官[kuan] 端[tuan]	末 uat	14 (25)	122 (129)
			2	刪 ǎn	姦[kǎn] 班[pǎn] ¹⁾	鎋 ăt	2	刪合 uǎn	関[kuǎn] 還[huǎn]	鎋合 uăt	15 (26)	123 (130)
			2	山 ʌn	間[kʌn] 編[pǎn] ²⁾	黠 ʌt	2	山合 uʌn	鰓[kuʌn] 栓[ʃiuʌn] ³⁾	黠合 uʌt	16 (27)	124 (131)
			純3	元 ʌn	建[kʌn] 言[ŋʌn]	月 ʌt	純3	元合 uʌn	原[ŋruʌn] 袁[ɦruʌn]	月合 uʌt	61 (71)	150 (154)
			3	仙 ien	件[giɛn] 免[mien]	薛 iet	3	仙合 iuen	權[gruen] 員[ɦruen]	薛合 ruet	90 (101)	167 (174)
			4	仙 ien	便[bien] 延[yien]	薛 iet	4	仙合 iuen	宣[siuen] 沿[yiuɛn]	薛合 iuet	89 (100)	166 (173)
			仮4	先 en→ien	堅[ken] 辺[pen]	屑 et→iet	仮4	先合 uen→iuɛn	涓[kuen] 淵[•uen]	屑合 uet	36 (41)	136 (139)
	D	蟹撰(アイ・エイ、ワイ・ エイ(エイ)) (ai/ei, uai/uei)	1	咍 ɔi	該[kɔi] 来[lɔi]	入声なし	1	灰 uɔi	回[ɦuɔi] 隊[duɔi]	入声なし	6	118
			1	泰 ai	蓋[kai] 太[t'ai]		2	泰合 uai	会[ɦuai] 最[tsuai]		3	115
			2	夬 ǎi	犗[kǎi] 啐[ts'uai] ⁴⁾		2	夬合 uǎi	快[k'uai] 敗[puai]		4	116

		2	佳 āi	崖[ŋāi] 牌[bāi]		2	佳合 uāi	掛[kuāi] 画[hūāi]		4	116
		2	皆 ai	諧[hāi] 排[bai]		2	皆合 uai	怪[kuai] 壞[hūai]		5	117
		純3	廢 iai	刈[ŋiai]		純3	廢合 iuai	穢[ɬuai] 肺[ɦuai]		51	145
		3	祭 iei	憇[k'iei] 偈[giēi]		3	祭合 iuei	劇[kɬuei] 衛[hɬuei]		80	160
		4	祭 iei	芸[ŋiei] ⁵⁾ 世[ɦiei] ⁶⁾		4	祭合 iuei	歲[sɬuei] 銳[yɬuei]		79	159
		仮4	齊 ei→iei	鷄[kei] 帝[tei]		仮4	齊合 uei→iuei	圭[kuei] 慧[huei]		32	133
E	咸 撮 (アム・エム) (am/em) (合口はなし)	1	覃 əm	含[həm] 南[nəm]	合 əp	合口なし			入声なし	13 (24)	合口なし
		1	談 am	甘[kam] 三[sam]	盍 ap					10 (21)	
		2	銜 ǎm	監[kǎm] 衫[sǎm]	狎 ǎp					11 (22)	
		2	咸 ʌm	緘[kʌm] 讒[dzǎm] ⁷⁾	洽 ʌp					12 (23)	
		純3	嚴・凡 iam	醜[·iam] 帆[buiam] ⁸⁾	業・乏 iap					58 (68)	
		3	塩 iem	檢[kiem] 淹[·iem]	葉 iep					85 (96)	
		4	塩 iem	厭[·iem] 塩[yiem]	葉 iep					84 (95)	
		仮4	添 em→iem	兼[kem] 甜[dem]	帖 ep→iep					35 (40)	
F	宕 撮・梗 撮 (アウ・ヤウ・ エイ、ワウ・ヤウ (キヤ ウ)・エイ(エイ)) (aŋ/iaŋ/eŋ, uaŋ/iaŋ (iuaŋ), ei (uei))	1	唐 aŋ	岡[kɑŋ] 当[tɑŋ]	鐸 ak	1	唐合 uaŋ	光[kuaŋ] 滂[p'aŋ] ⁹⁾	鐸 uak	18 (7)	126 (119)
		2	庚 ʌŋ	彭[bʌŋ] 鎗[tɕ'ʌŋ]	陌 ʌk	2	庚合 uʌŋ	觥[kuʌŋ] 磅[p'aŋ] ¹⁰⁾	陌 uʌk	19 (8)	127 (120)
		2	耕 eŋ	棚[bɛŋ] 争[tɕɛŋ]	麦 ek	2	耕合 ueŋ	宏[hueŋ] 轟[hueŋ]	麦 uek	39 (34)	138 (135)
		3	陽 iaŋ	薑[kiaŋ] 央[·iaŋ]	藥 iak	3	陽合 iuaŋ	王[hɬuaŋ] 方[pɬiaŋ] ¹¹⁾	藥 iuak	64 (54)	152 (147)
		4	陽 iaŋ	將[tsiaŋ] 羊[yiaŋ]	藥 iak					63 (53)	
		3	庚 iʌŋ	敬[kɬiʌŋ] 迎[ŋiʌŋ]	陌 iʌk	3	庚合 iuʌŋ	兄[hɬiʌŋ] 榮[hɬiʌŋ]	陌 iuʌk	65 (55)	153 (148)
		3	清 iɛŋ	征[tɕiɛŋ] 令[lɛŋ]	昔 iɛk					93 (82)	
		4	清 iɛŋ	輕[iɛŋ] 精[k'ɛŋ]	昔 iɛk	4	清合 iueŋ	傾[k'iuɛŋ] 營[yiuɛŋ]	昔 iuek	92 (81)	169 (162)
		仮4	青 eŋ→ieŋ	經[keŋ] 丁[teŋ]	錫 ek	仮4	青合 ueŋ→iueŋ	肩[kueŋ] 螢[hueŋ]	錫合 uek→iuek	38 (33)	137 (134)

第一類 (オ、ヨ、ウ、ユ、 <small>(o/io/u/iu)</small> <small>(iu/ni/oi/o)</small>)	G 遇撰(オ・ヨ・ウ・ユ) <small>(o/io/u/iu)</small>	1	模 o	孤[ko] 烏[・o]	入声なし	(全体が合口的な韻母ばかりで、とくに合口を区別しない)				44	(合口を 区別せ ず)
		2	×								
		3	魚 io	居[kio] 虚[hio]						108	
		4	魚 io	莛[tsio] 余[yio]						107	
		3	虞 ru	拘[kru] 敷[p'ru]						143	
		4	虞 iu	須[siu] 兪[yiu]						142	
	H 通撰・江撰(オウ・ユウ・ ヨウ) <small>(ou/iou/iov)</small>	1	東 uŋ	工[kuŋ] 翁[・uŋ]	屋 uk	(全体が合口的な韻母ばかりで、とくに合口を区別しない)				141 (140)	
		1	冬 oŋ	攻[toŋ] 宗[tsoŋ]	沃 ok					47 (45)	
		2	江 əŋ	腔[k'əŋ] 双[səŋ]	覺 ək					48 (46)	
		3	東 iuŋ	弓[kiuŋ] 風[piuŋ]	屋 iuk					180 (178)	
		4	東 iuŋ	嵩[siuŋ] 融[yiuŋ]	屋 iuk					179 (177)	
		3	鍾 ioŋ	恭[kioŋ] 封[pioŋ]	燭 iok					112 (110)	
		4	鍾 ioŋ	松[sioŋ] 容[yioŋ]	燭 iok					111 (109)	
第三類	I 臻撰(オン・イン・ヲン、 ウン・イン(キン)・ユン) <small>(ən/ɛn/uən, iuən/iĕn)</small> <small>(uĕn)/iuĕn)</small>	1	痕 ən	根[kən] 呑[t'ən]	沒 ət	1	魂 uən	昆[kuən] 敦[tuən]	沒 uət	17 (28)	125 (132)
		2	臻 ɛn	臻[tʂɛn] 莘[ʂɛn]	櫛 ɛt						
		純3	欣 iən	斤[kien] 隱[・ien]	迄 iət	純3	文 iuən	君[kiuən] 分[piuən]	物 iuət	62 (72)	151 (155)
		3	真 iĕn	巾[kieŋ] 貧[bieŋ]	質 iĕt	3	諄 iuĕn	困[k'iuĕn] 筠[hieŋ]	術 iuĕt	88 (98)	165 (172)
	4	真 iĕn	津[tsieŋ] 寅[yieŋ]	質 iĕt	4	諄 iuĕn	遵[tsiuĕn] 勻[yiuĕn]	術 iuĕt	87 (98)	164 (171)	
	J 曾撰(オウ・ヨウ・ヲウ) <small>(əŋ/iəŋ/uəŋ)</small>	1	登 əŋ	恒[həŋ] 增[tsəŋ]	徳 ək	1	登合(肱・弘) uəŋ		徳合 uək	20 (9)	128 (121)
		2	×		×	2	×		×		
		3	蒸 iəŋ	兢[kieŋ] 氷[piəŋ]	職 iək	3	×		職合 iuək	67 (57)	× (149)
		4	蒸 iəŋ	繪[dziəŋ] 蠅[yieŋ]	職 iək	4	×		×		
	K 深撰(イム)(iəm)	1	×		×	(合口はなし)					

		2	×		×					
		3	侵 iəm	今[kɪəm] 音[・iəm]	緝 iəp				60 (70)	
		4	侵 iəm	深[fiəm] 淫[yiəm]	緝 iəp				59 (69)	
L	流撰(オウ・イウ) (əu/iəu)	1	侯 əu	句[kəu] 頭[dəu]	入声なし	(合口はなし)			31	
		2	×							
		3	尤 iəu	久[kɪəu] 友[fiəu]					74	
		4	尤 iəu	秋[ts'ɪəu] 由[yiəu]					73	
		4	幽 ieu	樛[kieu] 幼[ieiu]					102	
M	止撰(イ、イ(辛)・ユイ) (ii, iě (iuě)/iui)	1	×		入声なし					
		2	×							
		純3	微 iəi	機[kɪəi] 衣[・iəi]		純3	微合 iuəi	非[piuəi] 帰[kriuəi]	52	146
		3	之 iei	姫[kɪei] 意[・iei]						
		4	之 iei	思[siei] 飴[yiei]						
		3	支 iě	奇[giě] 倚[・iě]		3	支合 iuě	委[・iuě] 危[ɣiuě]	76	157
		4	支 iě	祇[giě] 移[yiě]		4	支合 iuě	規[kiuě] 隨[ziuě]	75	156
		3	脂 ii	几[kɪi] 器[k'ɪi]		3	脂合 iui	龜[kɪui] 位[fiui]	106	176
		4	脂 ii	私[sii] 夷[yii]		4	脂合 iui	葵[giui] 惟[yiui]	105	175

- 1)藤堂 p.838 では、班の発音は puāu となっている。これは puān の誤植であるが、この p.1580 では開口音の例字を挙げるはずが、間違っ合口音の例字を挙げている。
- 2)藤堂 p.576 では、煽の発音は pān となっている。この p.1580 では、韻母 an の例字を挙げるはずが、間違っ ān の例字を挙げている。
- 3)藤堂 p.647 では、栓の発音は šiuen となっている。この p.1580 では、韻母 uan の例字を挙げるはずが、間違っ例字を挙げている。
- 4)この藤堂 p.1580 の啐の字は、本文に収録されていないので発音が分からない。上田萬年他編「大字典」啓成社(1923)には収録されていて漢音サイ、呉音セとなっている。簡野道明著「字源」角川書店(1955)では漢音・呉音ともにサイになっている。藤堂で収録されなかったのは何らかのミスであると考えられる。大漢韓辭典編纂室編「漢韓辭典」教學社(2013)では、啐、倅、淬、焠の発音がすべて同じで、ハングルを発音記号で表示すると[tʃ̥uɛ]となる。一方、藤堂では倅、淬、焠、の発音がすべて[ts'uəi]なので啐の発音記号も[ts'uəi]であると推定される。ところがここは韻母 ai の例字を挙げているはずなので、啐を挙げるのは不適切である。

- 5)ここは韻母 *iei* の例字を挙げているはずなのに、韻母が *iei* の芸を挙げるのは不適切である。
- 6)ここも韻母 *iei* の例字を挙げているはずなのに、韻母が *iei* の世を挙げるのは不適切である。
- 7)藤堂 p.1242 では、讒の発音は *dzām* となっている。この p.1581 では、韻母 *am* の例字を挙げるはずが、間違って *ām* の例字を挙げている。
- 8)藤堂 p.404 では、帆の発音は *biuam* となっているが、p.1580～1582 には韻母 *iuam* はなく、*iam* の誤植と考えられる。
- 9)藤堂 p.765 では、滂の発音は *p'aj* となっているが、ここは合口の例字を挙げる場所なので不適切である。
- 10)藤堂 p.914 では、磅の発音は滂と同じとなっていて、*aj* の合口の例字として不適切である。
- 11)藤堂 p.582 では方の発音は *piaj* となっていて、合口の例字として不適切である。

(2019.9.19 田中健彦)